

# 公益財団法人 音楽鑑賞振興財団

## 平成28年度 事業報告書

### 目 次

I 学校における音楽鑑賞の指導に関する研究及び指導法の普及事業（公益目的事業1）	2
1 研究活動	
(1) 研究委員会による指導事例と教材の開発、及び講習会への参画	
(2) 鑑賞指導に関する調査	
2 普及活動	
(1) 指導法に関する講習会の開催	
①音鑑・夏の勉強会 2016	
②音鑑・冬の勉強会 2016	
③音鑑・ICT 勉強会 2016	
(2) 研究大会・講習会等の後援	
(3) 広報活動	
(4) 音楽鑑賞教育マイスター会員の拡充	
3 出版	
(1) 季刊誌「音楽鑑賞教育」の発行	
(2) 書籍、映像資料の発行	
II 音楽鑑賞に関する論文作文募集による助成・表彰事業（公益目的事業2）	6
1 第49回 論文・作文募集	
2 賛助活動	
III 音楽鑑賞活動の普及事業（公益目的事業3）	9
1 音楽鑑賞のきっかけづくり	
2 財団保有の音楽関連資料の活用（松本記念音楽文庫の創設）	
3 財団主催コンサートの開催	
4 音楽鑑賞活動への導き	
(1) 音楽鑑賞ノートの普及	
(2) 電子書籍の発行	
5 松本記念音楽迎賓館を使った音楽活動の推進	
6 チェンバロ音楽普及の支援	
IV 世田谷区岡本緑地の環境保全事業（公益目的事業4）	11
1 岡本地域緑地の保全活動	
2 緑地保全の啓発活動	
V 松本記念音楽迎賓館諸施設の貸与事業（収益事業）	11

# I 学校における音楽鑑賞の指導に関する研究及び指導法の普及事業 (公益目的事業1)

## 1 研究活動

### (1) 研究委員会による指導事例と教材の開発、及び講習会への参画

平成28年度は、指導の充実が求められている「郷土の音楽」をテーマに、「これからの鑑賞の授業」1&2を踏まえた指導事例と教材(映像資料、ワークシート、解説資料等)に関する研究を行った。

教材として、「青森ねぶた祭の音楽」「神田祭の音楽」「こきりこ」を取り上げることにしたが、授業で使える映像資料が少ないことから、効果的な教材を新たに収録する必要が発生し、その内容を検討し、現地にて収録を行った。

- 「青森ねぶた祭の音楽」平成28年7月、ねぶたの家 ワ・ラッセ(青森県青森市)において収録  
演奏：囃子方 青森ねぶた凱立会 撮影：事務局スタッフ
- 「神田祭の音楽」平成28年8月、神田明神(東京都千代田区)において収録  
演奏：神田囃子保存会 撮影：(株)フォンテック
- 「こきりこ」平成28年8月、白山宮(富山県南砺市五箇山)において収録  
演奏：越中五箇山筑子唄保存会 撮影：事務局スタッフ

映像は、演奏のほかに、体験を通して特徴が感じ取れるように各楽器の個別の演奏や唱歌を収録した。また、それぞれの音楽の背景が分かるようにお祭りなどの映像の活用を検討した。更に、事例開発においては、ICTを活用した授業提案もできるような工夫も盛り込み、パソコンを使って提示できる楽器の画像や分割音源などの活用も検討した。

上記以外に当財団の主催講習会である「音鑑・夏の勉強会2016」「音鑑・冬の勉強会2016」におけるグループ研修、ワークショップ等を企画立案し実施した。

No.	開催日	検討内容
第1回	平成28年5月7日	・「郷土の音楽」の教材化・題材化：映像収録の内容について検討 ・夏の勉強会：企画
第2回	平成28年6月5日 (中学校部会)	・夏の勉強会：グループ研修の内容検討 ・「郷土の音楽」の教材化・題材化：映像収録の内容について検討 事例開発の方向性について検討
	平成28年6月19日 (小学校部会)	
第3回	平成28年7月10日 (中学校部会)	・夏の勉強会：グループ研修の内容検討 ・「郷土の音楽」の教材化・題材化：映像収録の内容について検討 事例開発の方向性について検討
	平成28年7月18日 (小学校部会)	
第4回	平成28年9月4日 (中学校部会)	・「郷土の音楽」の教材化・題材化：事例検討 ・冬の勉強会：ワークショップの内容検討
	平成28年10月1日 (小学校部会)	
第5回	平成28年10月1日 (中学校部会)	・冬の勉強会：ワークショップの内容検討
	平成28年11月6日 (小学校部会)	
第6回	平成28年11月6日 (中学校部会)	・「郷土の音楽」の教材化・題材化：事例検討、書式検討 ・冬の勉強会：「音鑑研究委員会報告」の内容検討 ワークショップの内容検討
	平成28年11月26日 (小学校部会)	

第7回	平成28年12月4日 (中学校部会)	・冬の勉強会：準備 ・「郷土の音楽」の教材化・題材化：事例検討
	平成29年2月5日 (小学校部会)	・「郷土の音楽」の教材化・題材化：事例(表記を含む)検討
第8回	平成29年2月19日	・「郷土の音楽」の教材化・題材化：事例検討(最終確認) ・次年度の研究内容検討

研究委員一覧 ※五十音順・敬称略

区分	名前	職名・役職
主管	藤沢 章彦	当財団理事／文教大学講師
小学校	石井ゆきこ	東京都港区立芝小学校主任教諭
	梅宮 真里	福島大学附属小学校教諭
	河崎 秋彦	茨城県取手市立取手小学校教諭
	熊倉佐和子	東京都練馬区立関町北小学校主幹教諭
	館 雅之	神奈川県横浜市立高田東小学校校長
中学校	安部 文江	長野県佐久郡御代田町立御代田中学校教諭
	高道有美子	東京都八王子市立打越中学校主任教諭
	長者久保希史子	青森県八戸市立中沢中学校教頭
	萬 司	北海道札幌市立澄川中学校主幹教諭

(2)鑑賞指導に関する調査

音楽科で今後必要とされる教材、教具に関するニーズ調査を継続的に実施し、その内容を研究委員と共有するとともに、音鑑・ICT勉強会2016の講義内容に取り入れ、参加者と共有した。

2 普及活動

(1)指導法に関する講習会の開催

①音鑑・夏の勉強会2016(教員免許更新講習選択領域6時間+12時間認定)

体験型の研修会として、1日目の音楽講座は「我が国や諸外国の伝統的な音楽」について講義で学び、ワークショップでは〈朝鮮半島の音楽〉〈アフリカの打楽器〉〈日本・東南アジアの竹の楽器〉を実際に体験した。2日目・3日目は鑑賞指導と評価について、主にグループ毎に研修を行った。「白鳥」「威風堂々」「アランフェス協奏曲」を教材にさまざまな音源を聴き比べ、ねらいに適した教材を選ぶ方法、〔共通事項〕を窓口にした楽曲分析の方法、指導の流れの考え方や評価の方法などを、講師のアドバイスのもと深めた。

日程：平成28年8月19日～21日(3日間)

会場：松本記念音楽迎賓館(東京都世田谷区)

受講者：第1日 40名〈内訳〉小学校教員24名、中学校教員11名、  
特別支援学校教員2名、その他3名

：第2・3日 31名〈内訳〉小学校教員17名、中学校教員12名、その他2名

教員免許状更新講習受講者 第1日：26名、第2・3日：18名

テーマ：よりよい授業を求めて

内容：第1日 (1)講義「我が国や諸外国の伝統的な音楽～その特色と指導～」

(2)ワークショップ〈朝鮮半島の音楽〉〈アフリカの打楽器〉〈日本・東南アジアの竹の楽器〉

(3)履修認定試験(教員免許状更新講習受講者のみ)

第2日 (4)講演「よりよい授業を求めて」

(5)講義「学習指導要領の内容と学習評価」

(6)グループ研修「音楽鑑賞の指導と評価」の実際：事例作成

第3日 (7)グループ研修「音楽鑑賞の指導と評価」の実際：事例作成(続き)

(8)グループ研修の発表、講評

(9)履修認定試験(教員免許状更新講習受講者のみ)

講師：藤沢章彦(当財団理事・研究主管)、加藤富美子(東京音楽大学教授)、李明姫(韓国重要無形文化財第23号伽倻琴併唱履修者)、李昌燮(一般社団法人民族音楽院代表理事)、飯田茂樹(東京学芸大学非常勤講師)  
財団研究委員4名：館雅之(神奈川県横浜市立高田東小学校校長)、梅宮真里(福島大学附属小学校教諭)、熊倉佐和子(東京都練馬区立関町北小学校主幹教諭)、萬司(北海道札幌市立澄川中学校主幹教諭)

後援：全日本音楽教育研究会

## ②音鑑・冬の勉強会 2016 (教員免許更新講習選択領域12時間認定)

音鑑の研究成果の発表と音楽科教育の今日的な課題や情報を共有すると共に、音楽の視野を広げる場として開催した。音楽講座は、「音楽と言葉」として歌曲についての講義と演奏を行った。

日程：平成28年12月27日～28日(2日間)

会場：独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)

受講者：133人<内訳>小学校教員41名、中学校教員53名、高等学校教員4名、特別支援学校4名、その他31名

教員免許状更新講習受講者29名

テーマ：よりよい授業を求めて

内容：第1日(1)講演「よりよい授業を求めて」  
(2)講演「音楽の授業の更なる充実～今後の動向を見据えて」  
(3)音鑑研究委員会報告「音楽のよさや面白さを味わう鑑賞指導／「郷土の音楽」の教材化・題材化」  
(4)ワークショップ「音楽のよさや面白さを味わう鑑賞指導」  
第2日(5)実践報告「平成27年度音楽鑑賞振興論文・作文募集  
作文・小学生の部入選校 実践報告」  
(6)お話とワークショップ「鑑賞と音楽づくり／創作を関連させて」  
(7)音楽講座「音楽と言葉」  
(8)履修認定試験(教員免許状更新講習受講者のみ)

講師：藤沢章彦(当財団理事・研究主管)(1)  
津田正之(文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官)(2)  
坪能由紀子(日本女子大学教授)(6)  
香川県高松市立香西小学校 山上美香(5)  
河野克典(横浜国立大学教授・バリトン歌手)(7)  
財団研究委員9名(3)(4)

後援：全日本音楽教育研究会

## ③音鑑・ICT勉強会 2016 (教員免許更新講習選択領域6時間認定)

教育の情報化が進む中、ICT活用の考え方と音楽科での活用例を紹介し、鑑賞指導用の簡単なデジタル教材を作成した。パソコン操作入門者向け。

日程：平成28年7月29日(1日間)

平成28年7月30日(1日間)

会場：松本記念音楽迎賓館(東京都世田谷区)

受講者：述べ20名<内訳>小学校教員14名、中学校教員4名、その他2名  
教員免許更新講習対象者：10名

内容：(1)講義「教育の情報化と音楽科教育」  
教育の情報化について／学習指導要領での位置づけ／ICT活用例の紹介  
(2)音鑑「授業支援ツール」とWindowsの基本的なソフトウェアを使用して、鑑賞指導用の簡単なデジタル教材を作成。  
(3)履修認定試験(教員免許状更新講習受講者のみ)

講師：林田壮平(当財団事務局主査・ICT担当)

## (2) 研究大会・講習会等の後援

鑑賞の指導法に関する研修会に講師を派遣・紹介、機材を貸出しするなど、各地の音楽教育研究会などの研修を14件支援した。

- ・「これからの鑑賞の授業」講習会への講師派遣。(11件/参加人数:375名)
- ・機材貸出し。(3件)

## (3) 広報活動

### ●パンフレットの制作・ダイレクトメールの発送

財団の事業内容を広報するため、平成28年度財団事業案内パンフレット、作文募集ポスターなどを制作し、作文募集にあわせて全国の小学校・中学校・高等学校・教育委員会 約3,000件に向けてダイレクトメールを発送した。

### ●音楽教育研究大会に出店し、先生方と直に対面して財団の事業を広報した。

- ・全日本音楽教育研究会全国大会 函館大会(総合大会) 他3件

### ●音楽教育研究大会の紀要等に向けて広告を掲載した。

- ・全日本音楽教育研究会全国大会 函館大会(総合大会) 他11件

### ●インターネットからの発信

メールマガジンやSNSでは、出版物の発行や勉強会の募集などの音鑑の情報をタイムリーに、音楽教育関係者向けの当財団ウェブサイト「ONKANウェブネット」では、各地で行われる研究大会や公開授業などの音楽教育に関わる情報と、過去に財団が発行した月刊誌の記事など教材研究や指導法に役立つ情報を発信した。

## (4) 音楽鑑賞教育マイスター会員の拡充

上記(3)広報活動と連携を図った結果、会員は若干増加した。

## 3 出版

### (1) 季刊誌「音楽鑑賞教育」の発行

年4回、季刊『音楽鑑賞教育』(Vol.25~Vol.28)を発行した。特集テーマは、編集会議を設定して、実践的な授業づくりについて、いろいろな角度から検討して決定した。また、新連載として、授業づくりに役立つよう教科書掲載の教材を中心に、教材研究に役立つ情報「教材ノート」、その教材を扱った展開例「私のレシピ」を毎号4曲取り上げた。

No.	通巻	発行日	特集
Vol. 25	529号	平成28年4月1日	音楽の授業づくり「知覚と感受の大切さと落とし穴」
Vol. 26	530号	平成28年7月1日	音楽の授業づくり「郷土の音楽に愛着をもつ」
Vol. 27	531号	平成28年10月1日	音楽の授業づくり 「音楽科教育におけるアクティブ・ラーニング」
Vol. 28	532号	平成29年1月1日	音楽の授業づくり 「音楽科と生活や社会との関わりを考える」

### 編集委員一覧 ※五十音順・敬称略

名前	職名・役職
川池 聡	当財団理事
藤沢 章彦	当財団理事/文教大学講師
加藤 徹也	当財団理事/武蔵野音楽大学教授
加藤富美子	東京音楽大学教授
佐野 享子	横浜高等教育専門学校講師
山下 薫子	東京藝術大学音楽学部教授

尚、年間購読者数を増やす工夫として、教員歴の若い教員にも取り組みやすく、読みやすいものとなるように、写真やワークシートの掲載を増やしたり、見出しを工夫したりするなど、誌面構成を改修した。

## (2) 書籍、映像資料の発行

- 3頁『I-1 研究活動(1)』で開発した研究成果「指導事例と教材」については、DVDブック事例集2「郷土の音楽」(事例、解説と資料、映像資料)として出版する予定だったが、映像の編集作業の進行が遅れ、平成29年度5月末に出版の予定となった。

## II 音楽鑑賞に関する論文作文募集による助成・表彰事業 (公益事業目的2)

### 1 第49回 論文・作文募集

定款第45条(選考委員会)の規定に基づき、第4条に掲げる研究助成の対象の審査及び褒賞に関する事項を審議する選考委員会を設置している。平成28年度の選考委員会は任期2年の初年度となり下記6名の方に委嘱した。また、論文・作文の審査を行うための選考専門委員は下記16名の方に、審査顧問を下記1名の方に依頼した。

※選考委員長を除き五十音順、職名及び役職は平成28年10月現在、敬称略

#### 選考委員一覧

渡邊 學而	選考委員長／音楽評論家／当財団理事
阿部 陽一	東京都世田谷区立世田谷中学校校長／全日本中学校長会予算対策部長
小原 光一	当財団評議員
高橋 基之	秀明大学学校教師学部教授／前全国高等学校長協会会長
早川 修一	東京都練馬区立向山小学校校長／全日本音楽教育研究会副会長
森 俊介	パイオニア株式会社総務部部長

#### 論文・作文選考専門委員 ◎：チーフ

研究助成の部	
◎藤沢 章彦	文教大学講師／元国立音楽大学教授／当財団理事
加藤 徹也	武蔵野音楽大学教授／全日本音楽教育研究会常任理事／当財団理事
加藤富美子	東京音楽大学教授
作文・小学生の部	
◎川池 聡	当財団理事
石丸 靖治	東京都目黒区立鷹番小学校校長／全日本音楽教育研究会常任理事
小崎 仁	東京都立川市立松中小学校校長／全日本音楽教育研究会常任理事
田郷岡美佐江	東京都荒川区立第七峡田小学校校長／全日本音楽教育研究会常任理事
津田 正之	国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官
作文・中学生の部	
◎小松 康裕	全日本音楽教育研究会事務局長／当財団評議員
伊藤 民子	神奈川県川崎市立中原中学校校長／全日本音楽教育研究会常任理事
臼井 学	国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官
風見 章	東京都杉並区立泉南中学校校長／全日本音楽教育研究会副会長
角 康宏	東京都葛飾区立青戸中学校校長／全日本音楽教育研究会常任理事

作文・高校生の部	
◎金本 正武	千葉大学高等教育研究機構特任教授／当財団評議員
飯田 勉	文部科学省初等中等教育局教科書調査官
九石美智穂	神奈川県立横須賀高等学校校長／全日本音楽教育研究会副会長

論文・作文審査顧問

福井 直敬	武蔵野音楽大学学長／全日本音楽教育研究会会長／当財団理事
-------	------------------------------

①募集テーマ

- 作文の部 「聴いてみつけた音楽の楽しみ」  
 研究助成の部 「鑑賞領域の学びを中心とした、音楽科教育に資する実践的な研究」

②実施期間

- 募集期間：平成28年 6月 1日～ 9月30日  
 審査選考：平成28年10月 4日 選考委員会  
 平成28年10月 5日～11月 7日 各部門別審査・審査委員会  
 平成28年11月 8日～11月22日 最終選考・選考委員会  
 入選発表 平成28年12月 1日 ONKAN ウェブネット及び郵送通知  
 平成29年 2月 1日 優秀作品発表（入選作特集冊子）

③応募状況

		応募総数	送付数	応募校数
		学校内応募数と 個人応募の合計	学校内選考後、 財団に送付された数	個人応募以外 の参加学校数
作文の部	小学生の部	1,797通	196通	42校
	中学生の部	4,660通	346通	54校
	高校生の部	522通	67通	15校
	合計	6,979通	609通	111校
研究助成の部		2通	2通	—

④審査基準

次の観点で応募作品を審査・選考した。

〈作文の部〉

- (1) 音楽鑑賞の活動や体験における、音楽を聴く楽しみや、音楽を聴いて得た感動などを素直に表している。
- (2) (1)について、音楽を形づくっている要素や要素同士の関連など知覚したことや、それらの働きが生み出す特質や雰囲気など感受したことをもとに表している。
- (3) (1)(2)内容を作文全体にわたって整理して表している。

〈研究助成の部〉

- (1) 鑑賞領域の学びを中心としている、音楽科教育に資するものである、実践的である、以上の3点を満たす研究計画である。
- (2) 研究の成果が、音楽科教育において広く普及することが見通せるものである。

⑤入選結果

		個人賞				学校賞
		最優秀賞	優秀賞	入選	合計	入選
作文の部	小学生の部	1名	3名	22名	26名	21校
	中学生の部	1名	3名	17名	21名	21校
	高校生の部	1名	1名	5名	7名	7校
	合計	3名	7名	44名	54名	49校
研究助成の部		1件				

●個人賞

入選者全員に賞状及び副賞を贈呈した。

●文部科学大臣賞

小学生の部・中学生の部・高校生の部の最優秀賞受賞作文3点を文部科学省に推薦し、同省より賞状が交付され、これを当該者に授与した。

●学校賞

学校応募の入選者在籍校、及び惜しくも入選にはならなかったものの応募作文が優秀であると認められた学校に賞状および副賞を贈呈した。

⑥副賞

	個人賞副賞	学校賞副賞
作文の部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘッドホン</li> <li>・書籍「親子で学ぶ音楽図鑑」</li> <li>・音楽CD(クラシック)</li> </ul> <p>〈最優秀賞/優秀賞：上記から2点〉 〈入選：上記から1点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「音楽鑑賞ノート My Music Memories」</li> </ul> <p>〈全入選者〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・BDプレーヤー</li> <li>・CDプレーヤー</li> <li>・AVアンプ</li> <li>・スピーカーシステム</li> <li>・DVD「オーケストラがやって来た」 (DVD4枚組)</li> </ul> <p>〈上記から1点〉</p>
研究助成の部	45万8千円	

2 賛助活動

全日本音楽教育研究会、日本音楽療法学会、公益財団法人日本オペラ振興会他、計7件に対して賛助を行った。



### Ⅲ 音楽鑑賞活動の普及事業 (公益目的事業3)

#### 1 音楽鑑賞のきっかけづくり

財団ホームページ『音楽鑑賞のすすめ』の充実は、新たに取り組む電子書籍を中心とした展開を想定していたが、電子書籍の発行が平成29年度のため、平成28年度は財団主催コンサート「魔王」のご案内の掲載にとどまった。引き続き電子書籍の発行に合わせて、“なるほど！”というきっかけの充実を図っていく。

#### 2 財団保有の音楽関連資料の活用（松本記念音楽文庫の創設）

レコード鑑賞会を開催した。また、財団の音楽関連資料を一般の方が検索しやすいように未整備だったLP、SPレコードのデータベース化の検討を行った。

#### 3 財団主催コンサートの開催

主催コンサートを3回行った。

##### ① 公演日：平成28年9月25日

公演名：みんなで楽しむ動物コンサート ～聴こう、歌おう、ひとつになって～

会場：松本記念音楽迎賓館 Aホール

出演：雨宮 知子(歌のお姉さん)、堀家 徳子(ピアノ) 企画協力：(有)プラネット・ワイ

入場料：大人3,000円 小学生1,500円 未就学児無料 入場者数：41名

##### ② 公演日：平成28年10月30日

公演名：石川陽子と楽しいひとときを！ みんなのチェンバロコンサート

会場：松本記念音楽迎賓館 Aホール

出演：石川 陽子(チェンバロ)

入場料：各回一般1,500円 通し券2,500円 学生以下500円 未就学児無料

入場者数：第1部(子ども可能コンサート)42名、第2部 41名

##### ③ 公演日：平成28年3月15日

公演名：ONKAN Concert シリーズ“これが聴きたかった！”第1回「魔王」

会場：渋谷区文化総合センター大和田 伝承ホール

出演：河野克典(歌)、穴見めぐみ(ピアノ)、

豊竹英太夫(現呂太夫)(語り)、竹澤團吾(三味線)

入場料：一般4,000円 児童・生徒・学生2,000円

協賛：パイオニア株式会社、オンキヨー株式会社、TADL(広告)、ローランド株式会社(広告)  
ボス株式会社(広告)、日本オーディオ協会(広告)

入場者数：約300人

宣伝として産経新聞1月31日紙の20万円枠に10万円で掲示した。

音楽之友社(教育音楽誌)の取材を受けた。

3回ともコンサートの直接経費は回収できた。

これらのコンサート企画に当たっては、財団理事であり音楽評論家の渡邊學而氏の審査を受けた。

#### 4 音楽鑑賞活動への導き

##### (1) 音楽鑑賞ノートの普及

平成26年度に発行した音楽の思い出を自由に綴れる音楽鑑賞ノート「My Music Memories」を広く普及させるための活動を行った。音楽雑貨店や音楽ホール内のショップなどの小売店に見

本を送付し案内するとともに、広報チラシの制作、全日本音楽教委育研究会全国大会等での販売、松本記念音楽迎賓館での見本展示・販売、論文・作文募集個人賞入選者への副賞としての提供、SNSでの情報発信などを行った。

## (2) 電子書籍の発行

音楽をより楽しく鑑賞するために“音楽が聴ける本”としての強みを活かした電子書籍の発行に向けて取り組んだ。平成28年度はクラシック音楽を題材とした電子書籍について、執筆者を交えてシリーズ化の企画、試作品の制作・検討を行った。また、音源提供元との使用条件の交渉、販売方法の確定、委託業者の剪定、委託契約内容の交渉等、平成29年度の発行に向けた準備を進めた。構成・執筆：渡邊學而（音楽評論家、財団理事）。

## 5 松本記念音楽迎賓館を使った音楽活動の推進

例年通り実行した。

## 6 チェンバロ音楽普及の支援

### ●日本チェンバロ協会主催の「チェンバロの日」の支援

日本チェンバロ協会（久保田慶一会長）による「チェンバロの日2016」が平成28年5月14日（土）～15日（日）に開催され、各室満席の盛況だった。今回の特徴としては、作曲家フローベルガーが取り上げられたことが挙げられる。

### ●若手演奏家の発掘・育成の会場としての支援

平成28年7月27日（水）夏休みの期間に、ボランティア活動家 山野辺氏の中高生へのチェンバロを含む古楽器普及活動を支援した。

### ●日本チェンバロ協会とタイアップした鑑賞教室・勉強会の支援

平成28年10月15日（土）日本チェンバロ協会のチェンバロ弾き合い会を支援開催した。

## IV 世田谷区岡本緑地の環境保全事業 (公益目的事業4)

### 1 岡本地域緑地の保全活動

例年通り地域の保存樹林を維持した。

### 2 緑地保全の啓発活動

年3回のみどりの講座を実施した。

講座名	開催日	講座内容	受講者数
春の講座	平成28年 5月22日(日)	松本記念音楽迎賓館の散策中心に近隣の森林の見学と押し花葉の製作	12名
夏の講座	平成28年 8月11日(日)	水辺の生き物の勉強と見学 バーベキュー実施	15名
秋の講座	平成28年11月27日(日)	秋の木の実の観察とクリスマスリース の材料収集	36名

## V 松本記念音楽迎賓館諸施設の貸与事業 (収益事業)

平成28年10月より、松本記念音楽迎賓館を貸与する利用料を、施設維持協力金としてカウントすることとした。これは、住宅環境に配慮し、収入を得るために建物を貸与して営業している形ではなく、財団の施設をご利用いただく方には、施設の維持のため協力金を頂戴する主旨に変えたもので、地域の住民や行政指導に、より適合する形とした。(定款上は収益事業)

本年度も映画、TV、音楽番組の収録の収入における比率は高い。合計は37本/年で、内ホームスタジオリ化しているBS日本のエンター・ザ・ミュージックの収録が14本あった。また、パイオニア株式会社の移転に伴い、途絶えていた研修利用が入った。